

日本に焦点(p1~2) 1992年11月には日本でジオシンセティックス関連の行事が相次いで催されこの時期日本に焦点が合わされることとなった。

- ・ジオシンセティックスによる補強永久盛土よう壁に関するシンポジウムが東京大学生産技術研究所龍岡教授によって組織実施され135名が参加
- ・I S九州が11月11~13日海外から78名、国内から310名参加して行われた。
- ・第2回東京ジオテキスタイルセミナーが11月16日100名以上の参加で実施、I G S 理事メンバーによるレクチャーが行われた。
- ・I G S の理事会、幹部会などがこの間行われ又、I G S 理事と日本支部法人メンバーとの昼食会なども行われた。
- ・11月15日 I G S 教育委員会Cazzuffi氏により日本支部学生会員対象のレクチャー
- ・行事の合間の週末を利用して京都観光、或いは羽田空港の現場視察など。

今回の日本での数々の行事の成功は次のアジアでの重要なイベント即ち第5回I G S シンガポール総会に引き継がれるものと確信している。

準法人会員制度創設に係わる内規の変更(p3) 1992年7月17日付で郵便投票が実施され全502票の中、賛成466、反対34、無効2票で承認された。準会員は法人会員の指名によって生まれるもので指名した法人会員が会費を負担する。準会員は一票の権利を持つ。7社が登録済。(下記)

Associate Member	Corporate Affiliate	Country	Year
Frank Parker & Co.	Don & Low	UK	1992
Raswill Representative	Tenax Spa	Singapore	1992
Trump Corp.	Tenax Spa	Taiwan	1992
Ardon International	Tenax Spa	UK	1992
Remo Ltd.	Tenax Spa	Turkey	1992
Tenax Kunststoffe GmbH	Tenax Spa	Germany	1992
Tenax Corp.	Tenax Spa	USA	1992

I G S 理事会のハイライト(p3~4) 1992年11月9~10日福岡で開催。新理事のメンバーにははじめての理事会であった。

- ・再び理事に就任された福岡教授に対しRowe会長より歓迎のことば。
- ・1991年度会員数、個人1241、法人48、準法人7、学生69。
- ・理事の改選を郵便投票で行えるよう内規の変更を承認。
- ・法人会員数社の要請により会議や展示会で使用できるような会社名表示板を作ることになった。
- ・1992年度決算と1993年度予算が承認された。
- ・決算は毎年専門の会計士によりチェック、総会の前年には完全な監査を受けその結果を総会に報告する。
- ・ジオシンセティックス関連製品や技術の普及に伴っておこる諸問題につきアドバイス

る賢人委員会設置のプロポーザルをDr.Giroudが準備するよう理事会が要請。又、技術委員会の設置も決定。

- ・インドネシア、オランダ、イタリーの各支部を承認。フランス、ドイツも進行中。
- ・第5回大会の準備が順調に進んでいる旨Ramaswamy教授から報告。
- ・北米支部が第6回大会のホスト国になる正式要請を出すことを決定。
- ・IGSの新しい名称をきめる郵便投票を次の総会前に実施する。
- ・理事会メンバーで図示シンボルをレビューする。
- ・ジオシンセティックス文献目録を1993年早い時期に刊行する。
- ・IGSの英文パンフレットを1992年中に印刷。引続きスペイン語版も作成。
- ・いくつかの委員会で新しい委員長を決定した。

建設物品質保証での基本概念変化(p4) ジオシンセティックスの建設品質保証(CQA=Constraction Quality Assurance) 企業は急速に成長してきたが本来設計者や施工業者にある筈の責任がCQA企業に転嫁されるようなことがおこっている。これは関係者に高分子材料についての知見が不十分なことも原因しているものと思われる。そこでIQP(総合品質計画=Integrated Quality Program)の概念でCQAはその一部とすべきである。IQPでは最初から高分子専門家をメンバーに加えて設計段階での材料の選定、施工業者の選定まで関与すべきである。(以上はI-CORP INTERNATIONALのMr. Ian D. PeggとMr. E. Ray Steinle, Jr.からの投稿である。)

用語と定義(p5) 毎号掲載の話題で今回はフランスで1991年10月に出版されたジオメンブレン関連用語が紹介されている。

マーサーレクチャー(p6-7) 1992年にはKoerner教授によりロンドン、ニューオーリンズ、高知の3ヶ所で開催された。主なるテーマはジオテキスタイルの長期濾過性能、ジオシンセティックスのクリープ、ポリマーの劣化など。

日本の学生メンバーとのミーティング(p7) 1992年11月15日東京理科大で開催。約70名参加。IGS教育委員長のCazzuffi氏による3時間講義。

法人会員紹介(p8-9) 今回は次の2社。

- ・ジオテクニクス社(オランダ) 主なる製品は次の通り。

MEBRA-DRAIN	パーチカルドレン材
GEOLOCK	垂直遮水壁材
GUNDLIN	HDP Eジオメンブレン
GEOFLEX	プラスチック製矢板
GEOSAFE	各種不織布

- ・ザ、テナックス グループ(イタリー) 主なる製品は次の通り。

MONO-ORIENTED GEOGRIDS 一方向補強グリッド、盛土、よう壁などに使用

BI-ORIENTED GEOGRIDS	タテヨコ補強、道路下、埋立てなどに使用
GEONETS	排水とジオメンブレンの補強
GEOCOPOSITS	埋立て、よう壁などの排水、濾過
GEOCELLS	立体ハニカム補強材
GEMATTS	立体、高強度のエロージョン防止材
STRIP DRAINS	パーチカル及び水平排水材
NURAGHE SYSTEM	MONO-ORIENTED GEOGRIDSとコンクリートブロック組み合わせ永久よう壁工法

Geotextiles & Geomembranes: I G S 公式誌 (p10) 1992年Vol.11 No.3~6までの目次紹介。1993年は年8回発行する。I G S メンバーは通常の40%割引きの£ 1 6 2で購読可能。

ジオシンセティックス文献目録 (p11) 理事会で刊行が承認されたが現在4000以上の文献が集められ次のように分類整理されている。

- Part 1 国際会議に提出されたもの
- Part 2 ジオシンセティックス専門出版物より
- Part 3 一般出版物より
- Part 4 新聞より
- Part 5 特定著者によるもののリスト
- Part 6 ジオシンセティックス関連の論文、レポート、書籍などのリスト

一人で15篇以上の発表をしている場合はPart 5に収録されることになるのでDr.Giroudまで連絡されたいとのこと。但しメ切は1月末。(既に時間切れ)

コンピューターソフトウェアについて (p12) ジオシンセティックス関連のコンピューターソフトウェアの整備を促進することが理事会で討議され会員からの情報提供がもためられている。

日本支部報告 (p12) 1992年2月14日に行われた日本支部総会の報告である。(内容略)

インド支部報告 (p13) 水資源開発プロジェクトへのジオテキスタイルの利用というケーススタディが刊行された。会員数が30名から34名に増加。

予定されている会議など (p15)

- Second International Conference on Reflective Cracking in Pavement
10-12 Mar. 1993 Liege Belgium
- Geosynthetics '93 30 Mar.-1 Apr. Vancouver Canada
- Sardinia '93 11-15 October, Sardinia, Italy